



北アフリカ地域ニュース

エジプト：原子力発電所建設に向けた動き

(11月25-29日付現地各紙)

1. ユニス・電力エネルギー相の発言

- (1) エジプト初の原子力発電所建設に関する調査は、来年3月までに終了し、同調査に関する報告書が人民議会とシューラー評議会に付される予定である。同報告書には、原子力発電所の建設予定地、原子力の安全に関する調査結果等が含まれる。
- (2) ムバラク大統領は、原子力発電分野におけるアフリカ地域でのエジプトのリーダーシップを確実なものとするために、エジプト初の原子力発電所建設に熱心に取り組んでいる。エジプトは、国際原子力機構（IAEA）を通じて、アフリカ地域における原子力協力協定（AFRA）に加盟する国々に対する支援に熱心である。

2. エザート・アブドルアジーズ元原子力エネルギー機構長官の発言。

（ロシアとの協力により建設されたシャルキーヤ県アンシャースにある原子炉に言及しつつ）原子力エネルギー分野においてエジプトと最初に協力したのはロシア人だった。政府は国際入札を公表し、原子力発電所建設に関する規格及び価格について最も望ましい入札を選定する必要がある。

3. カイロを訪問したロシア通商団団長の発言。

ユニス電力エネルギー相は、ロシア原子力庁と平和利用の原子力エネルギーに関するあらゆる分野で協力を開始するために、ロシア原子力庁と協力協定を締結する予定である。エジプトとロシアは、これまで2年に亘りアスワン・ハイダムタービンの維持管理プロジェクトで協力を進めており、同プロジェクトを今後3-4年継続する予定である。

4. ナビール・ラシュワン・ロシア専門家の発言。

ロシアは、原子力発電に関する協力で他国に条件を課すことがないため、エジプトにとってロシアとの協力は最良の選択である。チェルノブイリ原発事故を経験したロシアに対し、同国との協力を好ましくないとする人もいるが、ロシアは、同事故以降、原子力の安全性において先端科学技術に基づく手法を取り入れているため、こうした見方は正しくない。